

令和7年度 第1回 宇美町総合教育会議 議事録（要旨）

日 時	令和7年12月10日（水）10時～11時30分		
場 所	宇美町役場1階 多目的ホール		
出席者	安川 茂伸 町長 折居 邦成 教育長 田島 章江 教育長職務代理者 金子 辰美 教育委員 木庭 佳奈 教育委員 吉村 順子 教育委員		
欠席者			
事務局	原田 和幸 副町長 総務課 八島 勝行 課長 同 村上 浩一 課長補佐 同 大久保 麻衣子 総務法制係長		
説明者	学校教育課 川畠 廣典 課長 同 藤崎 賢 課長補佐 同 吉川 裕二 指導主事 社会教育課 太田 一男 課長 同 小宮 千幸 課長補佐 同 小野 博文 課長補佐 こどもみらい課 入江 和美 課長 同 辻 奈央 課長補佐		
	傍聴者 5人		

令和8年度 重点事業等について

学校教育課から

- ①給特法等改正にかかる教職員の健康・福祉の確保にむけて
- ②不登校未然防止について、

社会教育課から

- ③図書館・学校図書館と地域の連携協働による読書のまちづくり推進事業について、
こどもみらい課から
- ④こどもが安心して集える居場所づくりについて、説明を行いました。

その後、総合教育会議の構成員である町長と教育委員が意見交換を行いました。

議題① 納付法¹等改正にかかる教職員の健康・福祉の確保

○町長

初めに、議題1 「給特法等改正に係る教職員の健康・福祉の確保」について協議を行います。本議題について、ご意見・ご質問のある方は挙手をお願いします。

○学校教育課長

本日、やむなく欠席されております吉村委員からあらかじめ文書でご意見を頂いておりますので、ここで紹介させていただきたいと思います。

11月の「しぇず・うみフェスタ」において、くすのき教室²の生徒が作品を展示し、また会場の飾りつけをしてくれました。このことから、生徒と先生の間に信頼関係ができていて、向かう目標が明確であれば、生徒の心は動くのだということを実感しました。今後も、こういった場面で少しでも協力していきたいと思います。「業務量管理・健康確保措置実施計画（案）」に関して意見を述べさせていただきます。先生方の業務削減によって、時間的・精神的な余裕を確保することが必要です。つまり、こどもと向き合う時間と、気持ちの余裕を作り出すことが大事であると感じています。方策としては、小学校での教科担任制の導入、学校間の学年会議、学年チーム担任制、主要教科の習熟度別クラス分けなどがよいのではないかと考えます。こういった取組は、不登校対策にも有効ではないかと思っています。

¹ 公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法（令和7年法律第68号）

² 対人関係または心理的・情緒的等の理由により登校できない状態にある児童生徒の社会的自立を目的として、支持及び援助を行う教育支援センター

また、教師のワーク・ライフ・バランスを見直すことで、教師が「怒りやおごり、妬みや不機嫌」など、マイナスの感情に支配されない心を持って、児童生徒と向き合ってほしいと思います。以上のようなご意見を頂いております。

○町長

はい、ありがとうございます。

他にご意見を頂戴したいと思います。

○委員

こどもを取り巻く環境が変わってきていて、教師の「心の余裕」が大きく影響していると感じます。教師自身が、まずは楽しんで欲しい。こどもと一緒にやることを楽しめるような働き方に見直す必要があると思います。

そのためにも、学校外・校外で、教師以外が積極的に参加すべき業務ってありますよね。地域の大学生ボランティアなどを採用して、丸付けや学習の見守り、学校内でのお手伝いをしてもらうなどがあると思います。以前は先生が全部丸付けをして、それ待って…ということもしていましたが、人員が足りない今は、そういう部分を地域の人に担ってもらえればと思います。

○町長

「コミュニティ」、「学社連携」、「協働（共働）」も言われて久しいですが、委員がおっしゃるように、コロナ禍で地域の方が、学校に入りにくくなった現状があって、コロナ禍前を100とすると、まだそこまで戻りきれていません。ご指摘のとおりだと思います。

○委員

PTAもコロナ禍をきっかけに下火になっているところもあると思うのですが、PTAがあるといいところは、こどもに関心を持つ保護者が増えることで、学校の見方も変わってくるし、こどもを見据えた支援にもつながると思います。

○町長

PTAについても、役員になる方が本当に少なくて、会長と会計を兼ねられていたり、ごく少数で運営しているところもあります。昔はPTAで、学校に行く回数も多かったですね。おやじの会もありましたし。社会教育でいいますと、子ども会育成会連絡協議会が解散され、これは、こどもに関わることも多いのですが、実は自治会から離脱される方もすごく増えています。こういう課題には、何か共通するものがあるのではないかと感じています。

○委員

このような状況の中で、今、宇美町教育委員会（事務局）はよく動いておられる

思います。その結果が、中学校の子どもの学ぶ姿に出てきていると感じます。先日、宇美東中学校での研究発表会、その前の宇美南中学校の学校訪問の際、子どもの学習に対するまなざしが変わってきたと実感しました。

私自身、町の教育委員会の委員になって10年目になりますが、これまで皆さんがあつた努力が、やっと形になってきたのかなと感じています。ただし、中学校に比べると小学校には、まだまだ課題がありますね。学力的には、義務教育レベルで世界一高いのは日本だと言われますが、教員としての成果、そしてやりがいが見えにくいのではないかと思うことがあります。それは「忙しさ」によるものだと思います。小学校の段階で子どもがしっかり育てば、中学校はもっとやりやすくなるはずです。だからこそ、小学校に対して、中学校と同じように、いやそれ以上の支援をすることが、町の教育全体の課題ではないかと感じています。

この中で一番教員経験が長いのは私です。だからこそ、私が一番言えると思いますが、教員は以前も忙しかったですが、町の伝統や文化、地域が支えてくれる部分がある、教員が多少失敗しても、PTAや地域が救ってくれていました。しかし今は、教員は忙しく、地域と関わる時間も少なくなり、教員採用試験の競争倍率も落ちています。そうしたら、「深く考えて毎日の授業を構築する」ということが容易ではなくなりました。以前に比べて現場が疲弊しているように感じます。

ここで一番申し上げたいのは、特に小学校に対しては、町の支援でベテランの技術をもった退職教員などが学校に入り、学級経営、生徒指導、授業づくりの支援をしてもらうことが必要だということです。

ご存じのとおり、教頭も育休対応や教員欠員対応で職員室不在が多いようです。カリキュラムを扱う教務主任や主幹教諭も、忙しくて仕事が上手く進んでいかない状況があるようです。それを軽減するためにも、放課後や授業の合間を見て、「学級経営はこうしたらいいよ」「授業はこうしたらどう?」といった相談ができる体制を作ることが望ましいと思います。教育委員会の教育長はじめ、指導主事、課長さん、皆さんとてもお忙しいと思います。一人一人の若い教師や、つまずいている教員をじっくり支援する時間的な余裕が十分にないのが実情です。

結論として、少しお金をかけてでも、こうした人材を入れて、教員の時間的な余裕を作るべきだと考えます。中学校では、これまでの取組が着実に実り、一定の成果が見られるようになってきました。しかし、中学校に上がったときに、不登校になる子どもが増えているという現状もあります。これは、学力などが十分に身に付いていないと、中学校の学習についていけず、続かないということも一因だと思います。今日、私が一番申し上げたかったのはそこです。先生方は本当に頑張っていますが、これ以

上頑張るというのは、極めて難しいと思います。

○町長

この点について、教育長、いかがでしょうか。

○教育長

宇美町の小・中学校は全てコミュニティ・スクールとなっており、学校運営協議会がありますが、まだ十分に活性化しきれておらず、やや停滞している面があります。また、もう一つ宇美町には小学校ごとに「地域コミュニティ」があります。コミュニティ・スクールと地域コミュニティは、名前は似ていますが、役割は別の組織です。

この二つの連携をいかに図るかが、令和8年度以降の大きな仕事だと思っています。地域コミュニティには、すばらしい活動をされている方々がたくさんいます。その力を学校にお借りできれば、先生方に心の余裕を生み出せるではないかと考えています。

○委員

私は、実際に保護者の方から聞いた声をお伝えしたいと思います。

今、中学生を持つお母さんたちが一番不安に思っているのは、「部活がなくなるのではないか」ということです。先生方の働き方改革があるので仕方ない、法律で決まっているから…というのも理解しているのですが、「いつから本当に部活がなくなるのか」、「部活を一生懸命指導してくださっている先生たちはどうなるのか」、という不安の声がとても大きいです。今も、試合の引率など、本当に頑張ってくださっている先生方がいます。そうした先生方が、この取組によって部活から完全に離れることになってしまうのかといった不安です。例えば、残業代の支給が難しいのであれば、「手当」や「調整手当」といった形で、きちんとした報酬を出してあげることも必要ではないか、という保護者の意見もあります。お金だけの問題ではないにしても、「見合った報酬」というのは必要ではないかと思います。

それから、中学校の教員の残業時間についても、よく話を聞いています。何が大変かというと、やはり生徒指導と保護者対応だと。子どもの話をじっくり聞いてモニタリングし、別の先生とも情報共有し、二重三重の面談をして、その結果を保護者に連絡して…こうしたプロセスに非常に時間がかかるのだと伺いました。ここに、例えば支援員の先生が入ってくだされば、「無駄・無理」を省きつつ、もっときちんとした対応ができるのではないかと感じています。この取組（給特法改正）によって、質を低下させるのか、時間を融通されるのかどちらなのか。これが実体験で感じたことです。

○町長

教育長から、部活動や地域との関わりの部分について、もう少しお話を伺えればと思います。

○教育長

昨日まで行われていた定例議会でも答弁しましたが、部活動の地域展開は、必ず進めなければならないと考えています。これを進めない限り、中学校教員の時間外在校等時間は大きくは減りません。

「いつからか」というスタート時期については、まだ条件が整っておらず、明確な日付を申し上げられる状況ではありません。ただし、条件が整えば、例えば「令和〇年9月から、部活動は完全に地域展開します。」といった明示は可能だと考えています。現時点ではそこまで行っておらず、「今すぐいつから」とは言えない、というのが正直なところです。ただ、週末（土日）だけは、地域展開をどんどん進めていく方針です。先生の中には、部活動指導を続けたいという方もたくさんいらっしゃいますので、そういう先生方には兼職兼業として地域クラブで指導していただく形を想定しています。手当についても、今の部活では週休日1日当たり3,000円程度ですが、地域展開して兼職兼業で指導していただく場合は、「時給いくら」という形で、もう少し高めの手当がつくようになります。そういう意味では、先生方にとってもメリットがあると考えています。ただ、平日も含めて完全に地域展開するには、まだ時間がかかるのが現状です。保護者の皆さんのお不安には、できるだけ丁寧にお応えしていきたいと思っています。

それから、保護者対応の件ですが、小中学生がリアルな人間関係の中で生活している以上、トラブルが起きるのは避けられません。これがこじれると、教員は莫大な時間を取られます。ですので、今は初期対応を何より重視しています。起こってすぐ、最初の段階で、保護者や子どもの不安を和らげることが大切です。そのために、教育委員会の指導主事や、今2名いる指導監にも現場に入ってもらい、できるだけ正確かつ迅速に、誠意をもって初期対応を行うよう努めています。

○町長

今の「初期対応」について、先ほど委員がおっしゃったように、やはりベテランの先生が現場に入って、経験を生かして若い先生をサポートすることが重要ではないかと思います。ベテランの先生が入れば、トラブル解決にかかる時間も短縮され、その分、教材研究や授業準備に時間を回せることが可能になるのではないでしょうか。これは、先ほどお話しした「退職教員の活用」とまさに共通した話だと思います。他にご意見ございますか。

○委員

トラブルのところと関連しますが、私の教職経験では、ヒューマンスキルに課題のある教員のクラスで学級崩壊が起きたり、保護者と大きくもめたり、地域の問題に発

展したり、ひいては学校全体が荒れたケースを何度も見てきました。不登校を予防するためにも、学級経営をうまく行うためにも、あえて「ヒューマンスキルの育成」「ヒューマンスキル研修」というキーワードを打ち出して、子どもにどう接するか、保護者にどう接するか、地域の方にどう関わってもらうかといったことを、もっと教員が学ぶ必要があると思います。そして、それを大々的に保護者や地域にも発信し、「先生たちはこういう力を高めようとしている」という姿を見せてことで、保護者の信頼も高まり、トラブルも減るのではないかでしょうか。

今の校長先生方は、必ずしもそのあたりの経験をされていない方も多いと思います。私たちの世代は、生徒指導や教育相談、地域との共働の中で、こうした経験を積んできましたが、最近は少し状況が違います。

結論として、ヒューマンスキル、若い先生への「仕事の仕方」の伝授、この2つが、全てに還元できるキーかなと感じています。教師間の人間関係も以前と比べてぎくしゃくしている場面がありますし、学校の中で意見の対立が起こり、冷めた空気が生まれたりするケースもあります。こうしたものを解消するためにも、「ヒューマンスキル」を正面から掲げて、研修や取組を進めるのがよいのではないかと考えます。

○町長

おっしゃるとおりで、教員志望者が減り、競争率が下がっていることと、教員の質の問題には、やはり大きな関連があるのでしょうか。

○委員

人が人を育てるとき、一番大きいのは「先生の人格」です。多少不器用でも、こどもから信頼されていれば、こどもはついてきます。これは日本の教育のよさであり、地域の方の力もそこに加わってきたと思います。

今は「一人の人間としての生きざま」を見せながらこどもに接する、という部分が薄れてしまっているところもあるのではないでしょうか。日本人のよさを、町が、学校が、先生が自覚していく。「教員であることの誇り」「日本人として、伝統ある宇美町民としてのよさ」を自覚し、挨拶や言葉遣い、人の接し方を大切にすることで、状況はかなりよくなるのではないかと思います。

○町長

難しい話で一朝一夕にはいきませんし、校長になるまで30年かかる世界ですから、時間もかかりますが、それでも教員であることの誇りを大切にする必要があると思います。その点について、ご意見等ございましたらお願ひします。

○委員

宇美町には5つの小学校、3つの中学校がありますが、子どもの人口は減っていく

のではないかと思います。例えば、今は1学年2クラス、3クラスあっても、将来的に1クラスだけになる可能性もあるのではないかでしょうか。そのとき、小学校・中学校の校舎や教員配置はどのように対応されるのでしょうか。

○教育長

これまで議会でもお答えしてきましたが、人口統計がありますので、今後10年程度で、子どもの数や学級数がどうなるかは、ある程度予測できています。学校統合や学区の見直しといった話は、地域の方々と時間をかけて話し合わなければならぬと考えています。我々だけで「この小学校を廃止して一つにします」と決める事はできません。統計データを基に、時間をかけて丁寧に議論していく。その作業を今後進めていきます。

○町長

よく「井野小学校は将来老人施設になるんでしょう?」とか、「南中学校はどうなるんですか?」と言われるのですが、そういった前提で校舎等を設計しているわけではありませんし、そのような計画もありません。

最後にできた宇美南中学校も開校から30年近くが経ち、卒業生もたくさんいます。学校にはそれぞれの歴史がありますので、安易な結論を出すつもりはありません。しかしながら、人口動態を踏まえて将来の姿について議論を始めること自体は必要だと思います。

一つ言えることは、今は転出者より転入者のほうが多い人口の社会増の状況が続いている。イメージとしては、新宮町や粕屋町の方が、人口が増えているように思われるかもしれません、実は最近は、新宮町や粕屋町は転入者よりも転出者が上回る人口の社会減の時期も出ています。宇美町も楽観はできませんが、子育て政策などに力を入れてきたこともあり、若いご夫婦の転入が増えています。この傾向を維持・強化していくことが重要だと考えています。

○委員

学級数が減る問題ですが、学年に1学級しかない学校の運営では、子どもは育ちづらいと感じました。私が新任のとき、山間部にある小学校で、学年に1学級だけの小規模校にいました。同じ学級を4年間続けて受け持ったのですが、客観的に授業をすることや、行事を組むということが非常に難しくなることがありました。今振り返ると、環境的に十分とは言えない面もあったのかなと感じます。

その後、他の小学校に赴任したときは、1学年に複数学級があって、同僚と話し合いながら、いろんなことに取り組めて、本当に楽しい時間を過ごせました。教師としてのやりがいも、最初の4年間よりもありました。

今、学年に1クラスの学校が増えてきていますが、2クラスであっても小学校は忙しい余り、教員間での話合いが十分にできていません。このようなことも全て人材不足の要因としてつながっています。そして、若い人が育ちづらい環境が改善していかないといった課題があります。中学校はチーム制が機能しやすいのですが、小学校では中学校のようにはいかないこともあります。

だからこそ、先ほど申し上げたように、退職教員ネットワークのような仕組みを宇美町で作っていただけないかと思います。道徳であれば、元教育長のように、非常に深い知見を持った方がいらっしゃいます。そういう方を学校が積極的に呼ぶ。あるいは、大工さんでも、他の職人さんでもいい。様々な特技を持つ方々を学校に呼んで、こどもに本物を見せる。そのくらいの発信を行ってもいいし、遠慮してはいけないのではないかと思います。「学校から呼ばれないと、行ってはいけないのかな」と思っている退職者も多いのではないでしょうか。

○町長

学校の教員としては、地域の人を受け入れるに当たって、授業準備や調整の負担が増えるのではないか、という心配もあると思います。自分一人で授業をするのであれば、自分の裁量だけで計画できますが、地域の人が複数入るとなると、「那人とどう打合せするか」「誰が連絡するか」といった調整の仕事が増えます。そこにコーディネーター的な人がいれば、本来はその人が調整し、教員は授業づくりに集中できるはずです。

○委員

ボランティアや支援員さんは「授業の外側を支える人」として入っていただけるといいのではないかでしょうか。コミュニティ・スクール（CS）の活動の中で、昔遊びや読み聞かせなどに地域の人が入る取組がありますが、それをもう少し体系的に位置付けていくとよいのではないかと思います。

○町長

学習支援ボランティアの制度の現状は、どのような感じでしょうか。

○委員

登録いただいている学習支援員さんはいらっしゃいますよね。

○社会教育課長

「人材バンク」があります。

○町長

活用状況はどうですか。

○社会教育課長補佐

活用されている学校と、ほとんど活用されていない学校があり、全体としては一部にとどまっているのが現状です。

○委員

以前は PTA にもリストが配られて、「こういう支援員・ボランティアの方がいらっしゃいます」と共有されていましたよね。

○委員

PTA も大きな力を持っているので、人材バンクの情報を PTA にもしっかり渡し、地域の方にも「こういう人がいる」と伝えれば、ずいぶん変わると思います。地域の方がいてくださるだけでも、先生にとっては安心材料になります。

○委員

安心できるとみるのか、見張られていると感じるのかによって活用に差が出ますよね。

○委員

若い先生の中には、保護者と話すのが苦手で、壁を作り、孤立してしまうケースもあります。相談相手がないまま抱え込んでしまう先生もいます。

また、保護者も孤立して、直接教育委員会（事務局）に連絡される方もいます。そうならないように、学校運営協議会やコミュニティ・スクールの場で、もっと具体的な「支援の仕組み」を話題にしてもよいのではないでしょうか。今は「学校全体の方針」について話すことが多いのですが、そこに教員支援・保護者支援の視点も入れていけるといいと思います。

○町長

おっしゃるとおりで、「学校と地域が一体となってこどもを育てる」という原点に立ち返る必要があると考えています。宇美町には小学校区単位の地域コミュニティ組織があります。その力を借りて、積極的に学校へ入ってきていただく。また、学校側も入りやすい仕組みを構築することが大切だと思いました。

議題② こどもが安心して集える居場所づくり

○町長

それでは、次の議題に移りたいと思います。

「こどもが安心して集える居場所づくり」についてです。

この点について、皆さんからご意見をお願いします。

○委員

こういう「子どもの居場所づくり」では、必ず管理者が必要になるというのが大きな問題になると思います。昔だったら、学校から帰ってきて、公民館とか公園が子どもの集まる場所になっていましたよね。そこで遊んでいて、時間になつたら帰る、という感じで。でも今は、見守りがある場所でなければならないという厳しい問題があるのかと思います。

今、中高生は自宅以外で勉強する場所であつたり、友達とおしゃべりできる場所をすごく必要としているのではないかと感じます。せっかくハピネスに、子どもの居場所ができたのですが、月1回だけの開所ではもったいないと思います。自習室を設けると管理者が必要になるので、ハピネスや役場にちょっとしたブースを設けるなどして場所が増えたらいいと思います。

○町長

フリースペースを「子どもの居場所」にすることは難しくなっています。昔なら「自己責任」で済んだことが、今は「管理責任」が問われる時代です。昨年のこども会議で、こどもから出てきた意見は、「自分たちが学べる場所が欲しい」という提案でした。学校で議論してもらい、代表の子どもが集まって私と討論をした中で、勉強できる場所、遊べる場所、そして何より、「地域の人から学びたい」という声が多く出ました。これは、驚きました。

私たちが子どもの頃は、「地域の人から学びたい」なんてあまり思っていなかったと思います。プロ野球選手に会いたいとか、有名人に会いたいとか、そういう夢の方が多かったです。それが今の子どもは、「勉強したり、遊んだり、自由に過ごせる場所が欲しい」「それを地域から学びたい」と言うのです。職業観や将来の仕事についても、地域の人から直接学びたいというニーズがある、といった意見を受けて、すぐを作ったのが宇美中学校のエンジョイうみ、今のコミュニティ広場えんです。先ほど、こどもみらい課からも説明がありましたが、一定の利用ニーズがあり、このような場所が増えていけばよいなと思っています。子どもは、「自由に行けて、なおかつ安全で安心できる場所」を求めています。その意味では、管理する大人がいる居場所のほうが望ましいと考えています。

○委員

エンジョイうみには、地域の方は来られてないですよね。

○町長

そこに地域の方や、施設の方々が来てくださるような仕組みがあるといいと思います。そのためには、マッチングが必要ですし、特技を持った人が「スポット」で関わるような仕組みも、必要になってくるのかなと感じています。

○委員

公民館を開放するのが一番早い方法かもしれません、そこでも「誰が管理するか」「誰が責任を負うか」が問題になります。

○町長

先日、地域の公民館の掃除を行ったとき、地域のお年寄りの方たちが、「公民館に人が来るのは、お盆と正月のゴミ回収か掃除のときくらいよ」と言っていました。昔は、子ども会や七夕まつりがあったり、夏祭りがあって、1月は餅つきや、ほんげんぎようがあったりと、公民館に人が集まる行事がたくさんありました。今は、子どもが減り公民館に通うことも少なくなっています。

○委員

今は、イベント的な企画をしないと集まらない状況ですよね。

○町長

本来は、「学校が終わって、公民館に行けば誰かがいて」というのが理想なのでしょうが。

○委員

地域のお年寄りにとっても、そこが居場所になるような場が望ましいと思います。

○委員

今やっている町の事業は、利用者が多いか少ないかにかかわらず、「必要としている子どもが行ける場所」がある、ということ自体に価値があると思います。

後はですね、ハピネスが遠い、中学校が遠いというものがありますので、少しづつ地域の公民館を使って広げていくのがよいと思います。例えば、交通当番をしてくださっている地域のお年寄りが、その流れで週に何回か公民館を開けて、責任者がいて、そこで子どもが勉強したり、本を読んだりするだけでもよいのではないか、と感じています。そういうことを、まずは「やってみる」ということが必要だと思います。私も、ある学校で「おやじの会もない、読み聞かせもない」という学校に行ったことがあります。そこで、PTAの方に「おやじの会をつくりませんか」と提案したら、すぐに作ってくださって、読み聞かせの会も立ち上りました。そうしたら、変わっていきました。同じように、町民の方の意識、つまり「地域で子どもを育てる」という意識を育していくためには、少しづつどこかの公民館でまず成果を上げる。それによって、子どもも、地域の方も、お年寄りも元気になるような「モデル」を示せばよいのかなと思います。

子どもについては、会津藩ではありませんが、什の掟を作って、「ここに来ていいけれど、挨拶をきちんとする」「来たときよりきれいにして帰る」「掃除をしてから帰る」

などのルールを作つて、健全育成の場とすることも考えられます。他の町がやっているかどうかは分かりませんが、新しいことをするなら宇美町からといったワクワク感を持つことが、楽しいと感じることにつながると思います。

今でも宇美町はずいぶんよくなっていますので、今後5年、10年後の宇美町をつくる人材を育てる場にもなり得るのではないかでしょうか。ここに集まつてくるこどもが、将来のリーダーになっていくのだと思います。それを中央で集めてよいですし、公民館で1人、2人からで集めてもよいので、安全管理など色々な問題はありますか、少しの研修で対応できるようにしたり、複数人で見守る体制を取つたりすることで、十分に乗り越えていけるのではないかと考えています。

○委員

とてもいい居場所ができたと感じています。特に、コミュニティ広場えんは本当にきれいな空間で、こどもも気に入っていると思います。一方で、送り迎えが必要という点が、少し敷居を高くしてしまい、利用が伸び悩んでいるのかなと感じています。そこをもう少し周知して、SNSなどを使って、フランクに行ける環境設定があるといいのかなと思っています。

また、ハピネスについても、研修室のようなスペースで勉強できるようになると、よりよいと思います。実際、こどもからのニーズもあります。オンラインの意見箱で628件もの意見が集まっているのは本当にすごいことです。そこには大学生・高校生の意見もあると思いますので、こうした「これから宇美町を担う世代」の声はすごく大事だと思いますので、駅などに、この二次元コードを付けてもらつたらよいのではないかでしょうか。

もう一つ、個人的に感じているのは、駅前の商業施設が少し物寂しくなってきているように見えることです。以前ファストフード店があった広いスペースに人が少なくなっています。そういう場所を、こどもの居場所として活用できなか、というアイデアもあるのかなと感じました。

○町長

民間施設の活用ですね。

○委員

そうです。

管理の問題があるので、何とも言えませんが、下の階や駅前の商業施設周辺にも空きテナントもたくさんありますので、そういう場所にこどもや若者が集まる拠点ができればと思います。今でも宇美町が、変わってきているなという実感はあります。

○教育長

ご意見ありがとうございます。

中央公民館や図書館の学習スペースは、本当によい雰囲気で、中高生が一生懸命勉強している様子は、熱気を感じます。今、ハピネスにも同じような空間を作ろうと、関係部署が一生懸命取り組んでくれています。

○委員

ハピネス分校も入っているので、スペース的には難しい面もありますよね。

○教育長

ただ、1階のスペースや多目的室もありますので、特に南側地域の皆さんがあなたにアクセスしやすいような形で、どうにかできないか検討しているところです。警備体制などの環境は中央公民館等と同じなので、仕組みさえ整えば、同様の学習スペースとして活用できると考えています。もうしばらくお時間をいただければと思います。

本日の会議で2つの課題があったのですが、やはりキーワードは「地域」だと改めて感じました。これを課題解決に生かしていくらうと思っています。すばらしい地域の方がたくさんいらっしゃいますので、何とかお力添えをいただきたいと思います。

○委員

高校生や大学生といった若い人材がもっと関わってくれたらと思います。

○委員

若い人材、大学生・高校生なども、「小学校に関わるきっかけがない」と感じている人が多いと聞きます。関わってくれている大学生・高校生の姿を見ながら、子どもが育って、自分もそうなるんだとイメージが持てるような、地域に貢献できることをイメージできるようになったらよいなと思います。

○町長

今、教育長が申し上げましたとおり、「学校」と「地域」がキーワードです。

そして、もう一つ大事なのは、それらを結びつける「コーディネーション」が必要だと思います。いろんな輝く取組や人材があっても、それを結びつける人がいないと、相乗効果は生まれません。

○町長

他にご意見はよろしいでしょうか。

○委員

すみません、最後に一つだけよろしいでしょうか。

宇美町が「大好きだ」という感覚を養うためにも、宇美町の情報、歴史、地理、産業などを、図書館を通じてもっと伝えていくことが重要だと思います。小学校にも、

町が作っている副読本や資料がありますよね。それをもっと活用して、「宇美町が好き」「宇美町の歴史を誇れる」という意識が、社会科や歴史の学習の中で、自分たちのふるさとについて探究することによって育まれ、真実の歴史を知り、志を持ち、町を変えていく力につながると思います。

最近、YouTubeなどを見ていると、韓国や中国の若者の意識が変わってきているという話も耳にします。私たちが学んできた歴史が偏っていた部分もあり、日本に対する偏見も少しずつ変わっています。同じように、自分たちの国、ふるさと、地域を大事にするには、学校や学校図書館などの施設が「誇れる町」というテーマで情報発信していくことが大事だと思います。極端な例で、宇美町ではありませんが、「テレビを流して終わり」という授業を行っているという話も聞きますが、これはおかしいと思います。いくら忙しいからといって、忙しさを言い訳にしない仕組みづくりが必要です。図書館教育のこれまでの歩みをさらに発展させるためにも、宇美町に関する情報発信を強化していってほしいと思います。

○町長

平成19年9月29日に図書館が開館して以来、様々な取組を行ってきましたが、利用者のニーズもどんどん変わっています。そこは常にブラッシュアップが必要だと考えています。

今、委員から「誇り」というキーワードをいただきましたが、私どもが策定している第7次総合計画は、町の羅針盤のようなもので、その中でも「誇れるまちづくり」を将来像に掲げています。私が町長に就任する前から考えていたのは、宇美町には長い歴史があり、先人の方々の努力もあって、町として、糟屋郡の中でも最も古い町の一つだということです。そういう歴史や文化は、大きな「誇り」になります。こどもには、「自分たちが生まれ育った町がこういう町なんだ」ということを、様々なチャネルを通じて学んで欲しい。そして、たとえ大学進学や就職で一度は町を離れて、「いつか宇美町に戻って、結婚を望んでいる人たちが結婚して、こどもを望んでいる人たちがこどもを育てたい」と思ってもらえるような町にしていきたい。それが究極の目標だと考えています。その意味でも、教育委員会には、こどもに対して宇美町への誇りを育むアプローチを、これからも是非お願ひしたいと思っています。

長時間にわたり、活発なご議論を本当にありがとうございました。いただいたご意見は、今後の政策に反映させていきたいと思います。それではここで、進行を総務課長に交代したいと思います。

本日予定しておりました議事は全て終了いたしました。

これをもちまして、令和 7 年度第 1 回 宇美町総合教育会議を閉会いたします。
本日はご多用の中、活発なご議論を賜りまして、誠にありがとうございました。

(議事録署名)

以上が会議の議事内容であり、確定するために次に署名する。

この議事録は、令和 7 年 12 月 19 日に構成員折居教育長及び田島委員が署名の上、
確定したものである。